

前回復興委員会等における主な御意見の反映状況

1 「長期ビジョン」に反映した主な御意見

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
	第4章 復興推進の基本方向		
1	1 復興の取組の原則	「これからは、復興計画期間に整備が完了しなかった一部の社会資本などについて、早期に整備を終わらせる」という表現が、無理矢理終わらせてしまう印象を持つので、別表現を検討してほしい。	「復興計画期間に整備が終わらなかった社会資本などについては、早期に整備を完了する」に変更しました。【P25】  (変更前)
2		「復興計画期間に整備が完了しなかった一部の社会資本」という表現について、防潮堤などの重要部分を「一部」と表現している。被災地の安全を確保するために不可欠なものであり、早期整備が必要なものという認識に欠ける印象を持つ。	「復興計画期間に整備が完了しなかった一部の社会資本などについて、早期に整備を終わらせる」 (変更後) 「復興計画期間に整備が終わらなかった社会資本などについては、早期に整備を完了する」
3	4 復興の進め方	「被災者一人ひとりの復興を成し遂げられるよう、必要な取組は最後まで実施します」という強いメッセージを、被災者をはじめ県民に伝えたいのであれば、タイトルは「4 復興の進め方」ではなく、「4 復興事業の財源の確保」といったインパクトのあるタイトルにしてはどうか。	標題については、財源確保に特化したものではなく、財源確保や必要な事業等の継続について国に対して要望等を行いつつ、県として、被災者一人ひとりの復興を成し遂げられるよう必要な取組は最後まで実施する姿勢を示しているものであることから「復興の進め方」としているところから、 しかしながら、文頭に財源について記載しているため、復興財源の確保に特化したような記載とも読めることから、修正を行いました。【P34】  (変更前) 「この計画による復興事業を進めるための財源については、国に対して要請を行うなどにより確実に確保し、また、必要な事業や制度の継続についても国に対して要望や提言を行いながら、被災者一人ひとりの復興を成し遂げられるよう、必要な取組は最後まで実施します。」 (変更後) 「この計画による復興事業を進めるに当たっては、必要な事業や制度の継続について、その財源の確保を含め、国に対して要望や提言を行いながら、被災者一人ひとりの復興を成し遂げられるよう、必要な取組は最後まで実施します。」



No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
			<p>3 主要な指標（いわて幸福関連指標・長期ビジョン版）</p> <p>(1) 健康・余暇 ①健康寿命 ②余暇時間</p> <p>(2) 家族・子育て ①合計特殊出生率 ②男性の家事時間割合 ③総実労働時間</p> <p>(3) 教育 ①意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合 ②自己肯定感を持つ児童生徒の割合 ③体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合 ④高卒者の県内就職率</p> <p>(4) 居住環境・コミュニティ ①県外からの移住・定住者数 ②地縁的な活動への参加割合</p> <p>(5) 安全 ①自主防災組織の組織率 ②刑法犯認知件数 ③交通事故発生件数 ④高卒者の県内就職率〔再掲〕</p> <p>(6) 仕事・収入 ①一人当たり県民所得 ②正社員の有効求人倍率 ③総実労働時間〔再掲〕</p> <p>(7) 歴史・文化 ①世界遺産等の来訪者数 ②国・県指定文化財件数</p> <p>(8) 自然環境 ①岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数 ②再生可能エネルギーによる電力自給率 ③自然公園の利用者数</p> <p>(9) 社会基盤 ①河川整備率 ②緊急輸送道路の整備延長</p> <p>(10) 参画 ①労働者総数に占める女性の割合 ②障がい者の雇用率 ③高齢者のボランティア活動比率 ④男性の家事時間割合〔再掲〕</p>

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
5	第6章 新しい時代を切り拓くプロジェクト	「文化スポーツレガシープロジェクト」においては、前段にラグビーワールドカップ 2019 <sup>TM</sup> 釜石等の記載があるので、「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」の前段にも、三陸防災復興プロジェクト 2019 の記載を入れてほしい。	<p>「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」の「プロジェクトのねらい」に、「三陸防災復興プロジェクト 2019」に関する記載を追加しました。【P78】 （変更前）</p> <p>「東日本大震災津波からの復興の取組により大きく進展したまちづくりや交通ネットワーク、港湾機能などを生かし、三陸地域の多様な魅力を発信して国内外との交流を活発化することにより、岩手県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造を目指します。」 （変更後） <u>1 プロジェクトのねらい</u></p> <p>「東日本大震災津波からの復興の取組により大きく進展したまちづくりや交通ネットワーク、港湾機能などを生かした地域産業の振興を図るとともに、<u>三陸防災復興プロジェクト 2019 等を契機として生み出される効果を持続し、三陸地域の多様な魅力を発信して国内外との交流を活発化することにより、岩手県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造を目指します。</u>」</p>
6	3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト	「アクションプラン」よりも広い視野で考えるプロジェクトであるにもかかわらず、三陸ブランドという言葉さえなくなってしまう、残念である。もっと国内外との被災地支援・連携に触れたものを入れてほしい。	<p>「三陸ブランド」という言葉は使用していないものの、産業振興や交流人口の拡大により、三陸の地域ブランドを高めることを目指して取り組むこととしています。</p> <p>国内外との被災地支援・連携については、東日本大震災津波伝承館や震災津波資料などを活用して震災の教訓や復興の姿を発信し、復興ツーリズムを推進することなどにより、世界の防災力向上に貢献に取り組むこととし、具体的取組を追記しました。【P78】 （変更前）</p> <p>(1) 東日本大震災津波の教訓や、災害に強い地域づくりなどの復興の姿の発信による、世界の防災力向上に貢献する取組の推進 （変更後）</p> <p>(1) 「防災」で世界とつながる三陸 <u>東日本大震災津波伝承館や震災津波関連資料などを活用した東日本大震災津波の教訓や復興の姿の発信、復興ツーリズムの推進などによる、世界の防災力向上に貢献する取組の推進</u></p>

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
7	3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト	三陸地域の広域での連携を生かした新しい取組の記載を入れてほしい。	<p>三陸地域で連携して取り組む三陸防災復興プロジェクト 2019 やラグビーワールドカップ 2019™釜石開催などの大型イベントを契機として生み出される効果を持続しながら、2019 年に完成する東日本大震災津波伝承館を活用した復興ツーリズムの推進、新たな交通ネットワークを生かした産業振興や交流人口の拡大などに取り組むこととし、具体的取組を追記しました。 【P78】</p> <p>(変更前)</p> <p>(1) 東日本大震災津波の教訓や、災害に強い地域づくりなどの復興の姿の発信による、世界の防災力向上に貢献する取組の推進</p> <p>(2) 復興道路やフェリー航路、三陸鉄道など新たな交通ネットワークを生かした、地域経済の好循環を拡大する取組の推進</p> <p>(変更後)</p> <p>(1) 「防災」で世界とつながる三陸  <u>東日本大震災津波伝承館や震災津波関連資料などを活用した東日本大震災津波の教訓や復興の姿の発信、復興ツーリズムの推進などによる、世界の防災力向上に貢献する取組の推進</u></p> <p>(2) 多様な交通ネットワークで国内外とつながる三陸  <u>ア 復興道路やフェリー航路、コンテナ航路などの交通ネットワークを生かした企業誘致や、新分野への進出などによる企業の経営革新の促進</u>  <u>イ 復興道路等や港湾を活用した県内企業の輸出入及び県産農林水産物等の輸出の促進</u>  <u>ウ 三陸鉄道の利活用やクルーズ船の寄港拡大の促進など沿岸特有の交通ネットワークを生かした国内外からの誘客の促進と、三陸鉄道の駅を中心としたまちのにぎわい空間を生かした交流の拡大</u></p>

## 2 「政策推進プラン」に反映した主な御意見・今後、具体的対応を検討していく主な御意見・その他

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
1	第1章 理念 3 計画の理念	幸福について、個人の主観的幸福感と社会的包摂の両立を強調してほしい。	「いわて県民計画(2019～2028)」では、基本目標に掲げる「お互いに幸福を守り育てる」ことを実現するため、「主観的幸福感に関する12の領域」をもとに10の政策分野の政策体系を設定しており、また、この政策を推進するに当たっての基本的な考え方として、「こうした取組を進める上で、若者や女性の参画など多様性の視点や、社会的に弱い立場にある方々が、地域や職場、家庭などでのつながりが薄れることによって孤立することのないように社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視することが大切」である旨を明記しています。
	第2章 岩手は今（現状認識・展望） 3 岩手の変化と展望		
2	(1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行と今後の展望	人口減少と少子高齢化は岩手県の最重要課題であるため、その危機感を表現していくことが必要である。	第2章「岩手は今」において、人口減少と少子高齢化の進展は、各地域における様々な需要の減少をもたらし、地域経済をはじめとする地域の社会システムに様々な影響を与えること、また、地方から都市への若年層を中心とする人口の流出が続き、東京一極集中の是正が大きな課題となっていることなどを記載しています。 人口減少に歯止めをかけ、2040年に100万人程度の人口を確保することを目指し、子育ての負担や仕事と育児の両立の困難さといった「生きにくさ」を「生きやすさ」に転換していく取組や、国による東京一極集中の是正に呼応して、岩手県への新たな人の流れを生み出す取組を積極的に展開していきます。
	(3) 岩手の可能性		
3	①「健康・余暇」分野 [強み・チャンス]	「強み・チャンス」の一文目に、県立病院について記載があるが、幸福感を語るためには、まず病院ではなく、健康寿命についての記載を入れてほしい。	平成28年における本県の健康寿命は、男性が71.85年（全国28位）、女性が74.46年（全国34位）であり、全国と比較した際に、「強み」とは言えないと判断したのですが、幸福の実現のためには、健康寿命の延伸に取り組むことが重要と考えており、具体的取組については「政策推進プラン」に盛り込み、生涯を通じた健康づくりの推進に取り組んでいきます。

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
4	②「家族・子育て」分野 [強み・チャンス]	「分娩リスクに応じた周産期医療提供体制が構築されている」と言い切っているが、「岩手医大附属病院と9つの県立病院が役割を分担して、分娩リスクに応じた周産期医療を提供する体制が構築されており、近年、周産期死亡率は顕著に低下する傾向を示している」のような事実を即した文章にすべきではないか。	限られた医療資源の下で、医療機関の役割を分担して周産期医療を提供している現状を端的に言い表すものとして記載しています。 なお、周産期死亡率は、年変動があり言及することは困難と考えています。
5	第5章 政策推進の基本方向 1 政策推進の基本的な考え方	岩手県の地域レジリエンス（蘇りの力）に関する仕組みづくり、組織づくりの記述をさらに充実してほしい。	第5章「政策推進の基本方向」の「1 政策推進の基本的な考え方」に、各政策分野の取組を進める上での留意点として、「いかなる大規模自然災害が発生しても、致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを持つ強靱な県土づくりの観点に留意することが重要」と、国土強靱化の観点を盛り込んでいます。
	2 10の政策分野の取組方向		
6	(1)健康・余暇	これからの10年を考えるに当たり、「長寿」という視点が重要となる。人生100歳時代を迎え、生活に様々な変化が起こることが予想され、それに対応していく取組が必要である。	介護や支援が必要になるなど生活に変化が生じて、可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりが重要であることから、医療、介護、予防、住まい及び日常生活の支援が一体的に提供される地域包括ケアのまちづくりについて取組方向に盛り込み、促進していきます。 また、高齢者が長年培ってきた経験や知識・技能を生かした多様な地域活動への参画を促進することが重要であることから、老人クラブや高齢者主体の地域づくり団体への活動支援、相談体制の充実についても取組方向に盛り込み、高齢者の社会貢献活動を促進していきます。
7		岩手県では、以前から児童の肥満傾向について問題視されており、具体的な対策を盛り込む必要がある。	児童生徒の肥満は、将来様々な疾病を引き起こすリスクが高くなることから、引き続き、肥満予防・対策の取組を推進する必要がある、「(3)教育 ②【体育】児童生徒の健やかな体を育みます」に盛り込むとともに、具体的取組についても、「政策推進プラン」に盛り込んでいます。

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
8	(2) 家族・子育て	「安心して妊娠、出産、子育てができるよう、周産期医療提供体制の整備」としているが、新たな体制を整備するのであれば、「機能強化」という言葉の方が正しいのではないか。	今後、新生児の救急搬送としてドクターヘリによる搬送体制の構築を検討するなど、新たな取組も含め医療提供体制を整備していくものとして記載しています。
9	(4) 居住環境・コミュニティ	外国人旅行者などに対する、災害発生時のサポートについて盛り込む必要がある。	「(4) 居住環境・コミュニティ」において、教育、福祉、医療など身近な生活上の困りごとを相談・解決できる体制を充実し、外国人が暮らしやすい環境づくりを進めることとしており、その中で、災害時の外国人支援についても取り組むこととしています。
10	(9) 社会基盤	復興道路の整備とともに、三陸鉄道も一貫経営がはじまるなど、影響の大きな社会インフラが整備されるので、それらを活用した産業振興について記載してほしい。	沿岸地域の産業の活性化を図るためには、復興道路や三陸鉄道の一貫運行など新たな交通ネットワークを生かした取組が重要であることから、「第6章 新しい時代を切り拓くプロジェクト」の「3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト」において、「多様な交通ネットワークで国内外とつながる三陸」を盛り込み、三陸鉄道や駅を中心としたまちづくりと広域的な地域社会の形成を目指して取組を進めることとしています。 また、三陸鉄道の一貫運行を契機とした観光面での利用拡大についても重要であることから、「復興推進プラン」の「Ⅲなりわいの再生」、「3 観光」の「新たな交通ネットワークの活用による誘客の促進と交流人口の拡大」に三陸鉄道リアス線としての一貫運行のメリット等を生かした企画列車の運行などの取組を盛り込み、県内外からの誘客に向けた取組を推進することとしています。
11	(10) 参画	岩手県では、復興における女性の参画に積極的に取り組み、女性たちにも自らの意見を決定過程に反映させようという意欲の向上が見られるが、意思決定過程への女性の参画はほとんど進んでいない。一方で、女性が決定過程の場に登用されても、経験やロールモデルが少ないために、リーダーシップを発揮できない場合も少なくない。女性が様々な分野で持続可能な社会実現の担い手となるには、参画の一層の促進とともに、人材育成のための支援が必要である。様々な分野における意思決定の場に女性を複数参画させ、委員等における女性比率を30%以上とすること、女性リーダーの人材育成に継続的に取り組むことを提案する。	県では、審議会委員等の政策・方針決定過程への女性の参画を推進するため、数値目標を掲げて女性登用を働きかけているところであり、引き続き、「政策推進プラン」に盛り込み、取り組んでいきます。 また、女性リーダーの人材育成として、ロールモデル提供事業などのキャリアアップセミナーを開催するほか、女性活躍のための経営者研修等を実施しているところであり、引き続き、「政策推進プラン」に盛り込み、取り組んでいきます。



No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
12	(全体)	<p>女性参画推進の取組にも関わらず、「社会全体として男性の方が優遇されている」と感じる県民の割合は依然として高く、男女共同参画の推進は欠かせない。若年層の女性の人口流出を食い止め、U・Iターン者を増やすための有効な取組としても男女共同参画が注目されている。「参画」分野における取組だけでなく、「教育」「安全」「仕事・収入」をはじめ、すべての分野において男女共同参画の視点からの取組を拡充し、その上で、例えば、「教育」では男女混合名簿の導入率、「安全」では防災委員の女性比率、「仕事・収入」では労働者だけでなく管理職や6次産業の代表者における女性比率など、各分野の政策に応じた目標指標を設定することを提案する。</p>	<p>「政策推進プラン」の「X参画」分野の「49 性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくります」における県が取り組む具体的な推進方策に、「女性登用の推進」を盛り込むとともに、具体的推進方策指標に、御提案の指標を設定し、精査を進めています。</p>
13		<p>復興後の岩手県を考えた時に、10の政策分野の中に「参画」が入っていることは高く評価したい。その一方で、改めて「アクションプラン」に入れる際は、縦軸の政策分野（1～8）それぞれに具体的な数値など目に見える形で女性が参画しているということが分かる目標設定をしてほしい。</p>	<p>「いわて県民計画（2019～2028）」で掲げる政策分野の「社会基盤」と「参画」は、「家族・子育て」、「仕事・収入」など、他の8つの政策分野を下支えするものとして、政策を推進する上で共通するものです。</p> <p>また、「政策推進プラン」においては、幸福に関連する客観的な指標（いわて幸福関連指標）として「労働者総数に占める女性の割合」や「審議会委員等に占める女性の割合」を盛り込んでいるほか、男女共同参画、女性の活躍支援について、「県が取り組む具体的な推進方策」ごとに工程表や指標を掲げています。</p>
	<p>第6章 新しい時代を切り拓くプロジェクト</p>		
14	<p>4 県北プラチナゾーンプロジェクト (案：北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト)</p>	<p>プラチナ社会を使う場合、なぜ県北だけなのかは理解しがたく、岩手県全体にしても良いのではないかと。</p>	<p>県北地域は、豊かな地域資源を有する一方で、全県に先行して人口減少と高齢化が進行していることから、人口減少に立ち向かい、持続的に発展する社会を形成していくために、「エコロジーで、資源の心配がなく、老若男女が全員参加し、心もモノも豊かで、雇用がある社会」とされるプラチナ社会の考え方を生かしていくことができると考えているものです。</p> <p>「長期ビジョン」において記載内容を具体化する中で、県北圏域をはじめとする北いわてを対象とする背景等について盛り込みました。</p>

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
15	9 活力ある小集落实 現プロジェクト	「活力ある小集落实現プロジェクト」などによつて、10年後の未来に向けて持続可能なコミュニティを子どもたちに継承していくことが重要である。	持続可能な地域コミュニティづくりを推進するためには、将来の地域の担い手となる、子どもたちなどの若い世代に向けた取組が重要です。「活力ある小集落实現プロジェクト」では、世代間の交流などにより、若い世代に地域の魅力を伝え、伝統を受け継いでいくことや、若者、女性、シニア層など全ての世代が地域の課題解決に向けて活躍していく仕組みづくりに取り組んでいきます。
16		現在は「小集落」ではコミュニティが成立しないため、広域のコミュニティである「地域運営組織」をどのように形成するかが流行であるので、「小集落」という言葉の見直しを検討してほしい。	「活力ある小集落实現プロジェクト」は、人口減少が急速に進む中でも、住民が住み慣れた地域で暮らし続けていけるよう、小集落にも目を向けながら、将来にわたり持続可能な活力ある地域コミュニティの実現を目指すものです。御指摘の「地域運営組織」については、住民が自ら地域課題の解決に取り組む組織として、いくつかの小集落を結びながら形成を進めていくもので、本プロジェクトにおいて重要な取組の一つと考えています。
17	(全体)	プロジェクトの全て内容の幅が狭いので、もっと広く厚みを持った内容にしていただきたい。特に通常施策ではカバーできないものを総合的かつ抜本的に新しい視点から打ち出してほしい。	「新しい時代を切り拓くプロジェクト」については、「長期ビジョン」に掲げる10年後の将来像の実現をより確かなものとし、さらにその先をも見据え、経済・社会のグローバル化や第4次産業革命の進展、人口減少・少子高齢化の進行などの時代の変化に的確に対応しようとするものです。お示しした11のプロジェクトについては、「長期ビジョン」における計画期間内での一定の成果を目指しつつ、計画期間を超える長期的な展望を踏まえた視点、グローバル化や第4次産業革命の進展、人口減少・少子高齢化に対応した持続可能な地域社会づくりといった社会経済環境の変化に的確に対応していく視点、岩手県の豊かな地域資源や、県民性など、本県の強みや岩手らしさを生かし、次の世代にもつなげていく視点などの戦略的な視点を踏まえ、「アクションプラン」の期間を超える長期的な視点で進めていくべきものを掲げているものです。
18		北上川ゾーン、三陸ゾーン、県北ゾーンと3つの地域で網羅しているとすれば、広域振興局は4つあり、その整合性を取った方が計画としては良いのではないか。	「北上川バレー」、「三陸防災復興ゾーン」、「北いわて産業・社会革新ゾーン」の各プロジェクトについては、自動車や半導体関連産業を中心とした産業の集積、東日本大震災津波からの復興により大きく進展したまちづくり、食産業・アパレル産業や豊富な再生可能エネルギーなど豊かな地域資源や高速交通網の進展、といった各ゾーンの特徴を生かし、「アクションプラン」の期間を超える長期的な視点から広域振興圏の枠に捉われない将来像を示し、プロジェクトとして取組を進めていこうとするものです。また、4広域振興圏ごとの地域が置かれている状況や地域の特性を踏まえた、各広域振興圏域が目指す将来像の実現に向けた取組の方向性については、第7章「地域振興の展開方向」に位置付けています。

No.	長期ビジョン 該当箇所（章）	御意見等の内容	反映状況
19		<p>「ジェンダー統計・分析の徹底」について、第1回の女性参画推進専門委員会において知事も言及されているが、未だ徹底されているとは言えない。</p> <p>「政策推進プラン」の進捗管理に当たって、政策評価の仕組みに基づくマネジメントサイクルを機能させるためにも、その根拠となるジェンダー統計のさらなる整備と、その分析に基づく進捗管理の仕組みづくりを提案する。</p>	<p>男女の置かれている状況を客観的に把握することは、男女共同参画社会の実現にとって重要であることから、可能な限り男女別データを把握し、公表するよう努めていきます。</p> <p>また、「政策推進プラン」の進捗管理では、参画分野の政策項目などに男女共同参画に関連した指標を設定していることから、それらの指標の目標値の達成状況に加え県民意識等も考慮した政策評価を行うことで、プランの実効性を高めていきます。</p>
20	その他	<p>ハード面での復興は、概ね計画どおりできていると思うが、国の事情や社会事情で残っているものがある。特に三陸創造プロジェクトに挙がっていたILCや人口減少問題、にぎわいの問題、地域の連携などの課題はまだ残っていると思うので、これらの課題を「長期ビジョン」で重点的に取り上げてほしい。</p>	<p>「長期ビジョン」に掲げる10年後の将来像の実現をより確かなものとし、さらにその先をも見据え、経済・社会のグローバル化や第4次産業革命の進展、人口減少・少子高齢化の進行などの時代の変化に的確に対応するため、新しい時代を切り拓く11のプロジェクトを掲げ戦略的、積極的に取り組むこととしています。</p> <p>11のプロジェクトには、ILCの実現を契機に国際研究拠点の形成を目指す「ILCプロジェクト」のほか、東日本大震災津波からの復興の取組により大きく進展したまちづくりや交通ネットワークなどを生かした地域産業の振興や、三陸地域の多様な魅力を発信し国内外との交流を活性化することにより、持続的に発展するゾーンの創造を目指す「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」を盛り込み、取り組むこととしています。</p>